日本軍と戦って死んだ日本人捕虜

山本武利 (NPO 法人インテリジェンス研究所)

第2次大戦での軍隊では捕虜は不名誉と教育され、原隊に復帰すれば極刑に処せられた。「生きて虜囚(りょしゅう)の辱(はずかしめ)を受けず、死して罪禍(ざいか)の汚名を残すこと勿(なか)れ」という「戦陣訓」の1節が捕虜を苦しめた。母国への帰還は絶望的となった。しかし捕虜をこの上もない不名誉と思いながらも、死を急いだ者は少なかった。そのため日本への帰還は母国が敗戦国となり、捕虜体験が国家処罰の対象外となる場合しか考えられなかった。捕虜がとった一つの選択肢は軍隊の秘密情報を敵国に提供し、日本の敗戦を促すことであった。

日本兵捕虜は第2次大戦でほぼ例外なくほとんどの戦線で敵国に情報提供を行った。そうした行動は第2次大戦の参加国でもきわめてまれな行動であった(山本武利『日本兵捕虜はなにをしゃべったか』文春新書)。野坂参三は最新の新聞雑誌やラジオへの接触を通じて得た日本軍情報の所有者、分析者として延安で尊重されていたが、捕虜からの情報も貴重であったと「延安リポート」で語っている。

野坂は毛沢東と提携して、大量の捕虜を延安に集めて、メディア情報を客観化させ、インテリジェンス化するたもの作業を延安で毎日実行していた。アメリカなど連合国は捕虜から得た情報は活用したが、情報を搾り取った後は収容所に入れて、生きながらえさせるだけであった。ところが野坂や毛はかれらの利用価値を別途考えた。日本兵捕虜を徹底した仕方で洗脳し、日本軍との前線で反戦活動を行わせた。しかもその規模は八路軍の強い華北ばかりか新四軍の華中でも広範囲に展開し、日本軍のモラールを低下させた。これに参加した捕虜は2500名に達すると推定される。

弄敵者ノ帰投状況		
区分	人員	
	昭和 18 年度	支那事変以降
敵ヨリ抗日教育ヲ受ケ還送セラレタルモノ	7	70
自ラ脱出帰隊セルモノ	10	30
敵中ニ於テ抗日運動ニ従事中逮捕セルモノ	5	14
敵中ニ監禁中救出セルモノ	5	10
敵ノ工作ヲ受ケ諜者トシテ真に柚湯シ来リタルモ	E) 4	9
自ラ脱出我占領地ニ入リ更ニ逃走中逮捕セルモノ	2	3
計	33	136
備考:支那事変以降ノ人員中ニハ昭和18年度ノ	'数ヲ含ム	

軍要注意人

北支派遣甲第四二二五部隊(歩一兵)某ハ入営前ョリ共産主義ニ共鳴シ反戦思想ヲ有シ常ニ軍隊生活ヲ嫌忌シアリタルカ昭和18年度六月十八日表門歩哨トシテ立哨中仮眠シ衛兵司令ョリ叱責殴打セラレタルニ憤慨逃走シ中国共産党ニ投入携行兵器並ニ署用被服ヲ敵ニ提供シ済南付近ノ軍情ヲ漏泄ノ上在華日本人反戦同盟ニ参加シ同年九月七日反戦運動ノ指令ヲ受ケ張店ニ潜入途次逮捕セラル

等ノ事例アリ、斯種思想要注意者ハ縦令転向ヲ表明セルモノト雖モ勲モスレハ敵ノ思想工作ヲ受ケ易キ素因ヲ有スルニ鑑ミ指導監督上特ニ注意ヲ要スルモノト認ム之カ為要注意兵ノ身上把握ハ極メテ重要ニシテ特ニ転属等頻繁ナル状況ニ於テ関係部隊相互緊密ナル連繋ノ下監督指導取扱ヲ常ニ適切ナラシムルコト肝要ナリ(C12120748900)

潜在			要
的影			B
00支股	北京大学門	某 際庄町 禁 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東	發受信(首動)者
ヌ」ト替イテアツタガドウカシ「日本ノ高官ハ慰問文ーツ出サ支那軍撒布ノ宣傳文ニハ	ハレル事柄モアル様ダガ相當撒イテアツタガ成程ト思ス原デハ支那軍ノ抗日「ビラ」	多イ の 単文ラ見ルト 単文ラ見ルト 単文ラ見ルト 単大ル「デマー の 単文ラ見ルト 単ナル「デマー を を を は を は の は の は の に に に に に に に に に に に に に	通信 首動 ノ 概 要

C11110757000

鏡とと、一種、壁、一	11-11-1	宜傳工作ニ從事スルコト」ヲ條件ニ類放セラレ歸蹊ス於テ反戰共産思想ノ敎育ヲ受ケ「歸除後日本軍隊内ニ於テ之ガ
(禁) (第) (禁) (禁) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注) (注	・ - - - - - - - - - - -	託サレタル反動雑誌ヲ持金三月三日送湿セラレ篩隊ス选走、途中共産凡路軍ニ逮捕セラレ軍捜ヲ漏泄シ且八路軍ヨリ河北省鉅屈縣上駐留中昭和十五年九月二十九日軍除生活ヲ練忌
當二十三年 飯 田 定 一現,一現,陸、一路、陸、一北支步兵第○聯隊		副勧告文ヲ治安軍ニ手交ス日還送とラルル迄敵ノ處遇ニ甘ジ且還送ニ院シ託セラレタル反敵軍ノ重国下ニ大腿部貫通銃創ヲ受ケ途ニ捕虜トナリ十二月十
當一十八年 藤 獋 長 一補、陸、上衛、氐人族 第〇〇大除北支瀬立混成第〇族園	★ (*1 †) 	組入 八月二十七日靈壽縣南段營二於子皇軍討伐時敵ト共ニ避難中遠 二從事シ 民反戰同盟晉祭冀支郡」結成ニ加盟、軍事委員トナリ諸工作 3 同年三月晉祭冀邊區第四軍分區政治部ニ在リ「在支日本人 ルルず眞實ヲ答へ 1 敵ヨリ所屬部隊ノ兵力、裝備、部隊名、編成等ヲ訊問セラリ補譲トナリ 昭和十六年一月三日討伐二出動中敵ノ重国ヲ受ケ人事不省ニ陷

『軍機・風紀に関する資料』不二出版、1992

共産党軍は得意とする遊撃戦の前線や後方で日本兵捕虜に至近距離からの対日本軍の反戦のプロパガンダをメガホン、ビラ散布、郵便、電話などを駆使して行わせたが、彼らに手りゅう弾や銃砲を持たせたケースも少なくなかった。メガホンで声の届く至近距離からトーチカ、岩陰などにこもる日本兵に呼びかければ、夜でも銃弾を受けやすかった。

2014年の筆者の延安訪問での収穫の一つは反戦活動の前線で日本軍から反撃されて生命を失った人物の写真や人名のリストがある程度明らかになったことである。アジア歴史資料センターから「捕虜」「俘虜」などのキーワード検索でヒットするのはごく僅かである。ことにアジア太平洋戦争期には少ない。徹底した軍隊教育で捕虜は最高の恥辱として排撃された。兵士が捕虜になると自害するように教え込まれた。兵士が捕虜になったことが分かっても、家族には戦死ないし病死の連絡が行くことが多かった。したがって捕虜の資料はなかなか発見できない。とくに中国では八路軍が1940年ころから捕虜を優遇するようになって、捕虜が増えた。それは「支那側ノ我軍隊ニ対スル思想的瓦解工作」(A03032006300)とか「支那側ノ我ガ軍ニ対スル思想工作」(C11110754700)といった文書でようやく発見することができる。そこにおいては以下のような日本兵の動揺がうかがえる。

********							大放送ノ	依	ラデオー						
,	吳	上海〇〇部隊			本名与多	志川村			上海〇〇部隊某		1	選兵一ノ言	於字品	院患者ノ宮	
デテ	1	今	囘	皆	· ^	群	震	∄	去	Æ	撒	爲	共	÷	•
一大	ス	月	報	家	相	細	災	IJ	ル	1	1	=	產	1	
ベ阪	<u></u>	+	待	族	當	不	7	j		æ	ナ	盛	軍	÷	
ッ 、	=	六	ッ	等	動	明	IJ	發	月·	8	居	ン	^	7	
一京	依	日	云	1	搖	h	全	表	+	ッ	ンレ	=	今	ッ	
ヲ都	ŋ	午	₹	安	シ	1	滅	=	六	1	ガ	種	尙	B	
執ハ	關	後		否	デ	ı	ス	依	Ħ		中	4	日		. 3
ル全	西	六		ヲ	居	r		V	午		=	1	本		
滅	=	時		氣	n	デ		バ	後		1	宣	軍		,
۲	大	-		遺		7		京	八		共	傳	j		
尾	震	ラ		E		N		阪	時		鳴	7	後		
1	災	ヂ		居		ガ		地	凯		ス	ピ	万		
故	ガ	才		ŋ		所	8	方	歐		ル	ラ	攪		
急	7	=		委		屬		=	本	12	樣	<u>_</u>	亂		
1	ッ	٦.		細		跺		大	部	2.5	ナ	フ	1		

- 苦シイトキニハ戦争ニ敗ケテ共産八路軍ノ俘虜ニナツタ方ガマシダト思フ
- 三日モ四日モ食フ物ナク強行軍シ苦痛ヲ感ズルトキハ押切五郎(未帰還者)ノ 様ニ敵中ニ逃亡シヤウト思ウコトモアル、コンナ時ニ宣伝文ヲ見ルト一層ソンナ気持ガ強 クナル

こうした日本兵の中で八路軍のプロパガンダ攻勢に負けて、投降傾斜の潜在的心理が高まる。

しかし危険度の高い前線であった。このようなところへ捕虜を大規模かつシステマティックに派遣するのは、戦線は広いといえども共産党が戦う地域のみであった。一度共産軍と

死線で戦った体験のある日本兵を再び旧軍との凄惨なゲリラ戦に参加させることは、洗脳の成果である。攻守所を自在に変える遊撃戦では危険を避ける瞬時の判断力、行動力が個々の兵士には不可欠である。判断を誤れば自軍の仲間の支援を得られなく可能性が高くなる。ただし八路軍などからの旧日本兵の命令無視の自発的な前線離脱や逃亡の記録は見当たらない。むしろ追いつめられると、日本軍のとき八路軍に追い込まれたときには試みたことのない自害を敢行する反戦兵士が誕生していた。

宮川英夫なる人物の**写真**とキャプションがある。写真には次の手書きの文章①がのり付けされている。

写真 (添付)

① 故宮川英夫(前列右二)とキャプション

当時28歳、一九四五年三月、敵の拠点近くで工作中不幸にして敵の犠牲となったものです。敵の武装特務隊に包囲され、負傷して身に危険がせまったことを知った彼は、一切の所持品を処分した後、最後の一発で自決した。追悼大会は軍民参加の下に盛大に行われた。(キャプション)

次のリスト②も延安革命記念館で入手した「千古不朽―日偽軍工作人員犠牲者」にある「日本同志」のリストである。

② 日偽軍工作人員犠牲者

	所属	死亡年
清	晉察魯	1940
清	司	1942
彦	冀魯豫	1942
夫	司	
武	冀中	1943
留	晉西北	1941
覚	華中	1943
男	冀南	1943
勉	晉察魯	1945
夫	延安	1943
益	司	1944
失	司	1944
忍	華中	1 9 4 5
	清彦夫武留覚男勉夫益夫	清 晉察魯 清 寅魯豫 一 冀魯郡 一 冀四 中 丁 中 中 中 東南 華 東 至 一 中 東 五 五 中 東 五 五 中 上 上 上

ここでは宮川英男と記載されている。宮川ほど名前が残され、記録が多い戦死者は珍しい。 以下は2005年6月の椰子の実会編「元在華日本人反戦同盟員 解放連盟員犠牲者名簿」 (③)による。

③ 宮川英夫 晉冀魯豫支部 1944年平原地区で日軍に包囲され小銃で応戦、最後の一発で自殺。壮烈な戦死をした(足で引き金を引いた)。彼の死体を日軍は駐屯地に持ち帰り、近くに埋めた。李洛夫同志(戦場に共に居た中国同志)が、上級の指令の下に敵地に潜入し、宮川同志の遺体を掘り出し、大峰山の遊撃隊根拠地に選んで埋葬した。秋山氏の著作によれば、一九四三年泰山西方の官荘で1500名の日軍に包囲され、農家の麦わらの中に隠れていたところ、銃剣で突かれて発見され捕まり、連行されたが自殺したとある。埼玉県出身、皮革労働者(靴加工)元陸軍伍長。1941年晉東南平漢線付近にて捕まり、129師政治部(渉県王堡村)に送られた。教育を受け、覚醒連盟太行支部に加盟、その後組織委員をも勤めた。1942年初夏、日軍に包囲され、足を敵弾にうたれた張香山同志を背負って脱出した。

宮川秀夫墓地:1991年3月19日元晉魯豫支部長保谷団長、前田、小林、村田、渡辺正男、みさこ、田村涼子、上田登美子、加藤幸等が済南市長清県民生局長薫樹芳、張炳臣の案内により参詣する。案内によると、従来、遺骨は大峰山にあったが、1950年に長清県石林山革命烈士霊園に遷骨した。1985年1月済南市長清県人民政府民生局が墓地を造営した。その際、「宮川さんが張香山を救った」ように言われているのは「誤認である」と説明を受けた。保谷団長は墓前より墳墓の土を採取して持ち帰り、富士山麓河口湖畔の麗しき地に1992年5月22日遷從した(写真等あり)。

ここに記された1991年の墓参団は帰国当時次の記録④を残している。(保谷政治「私の訪中記 見たまま・聞いたまま」1991年5月15日)

④ 訪中団は、済南市郊外の長清県烈士公墓に眠る宮川英男同志の墓を参詣した。宮川英男同志は1941年7月20日河北省南部の地区で作戦中に八路軍の捕虜となった。のちに日本兵士反戦同盟に参加し、中国人民と肩を並べて、日本軍国主義の中国侵略に反対した。1945年6月山東省津浦線万徳の地区で反戦工作中に壮烈な犠牲になった。28歳の若さで、中華の大地に散った。宮川英男烈士の墓は小高い丘の上に、石垣に囲まれ15坪程の土地に立っていた。300数基を数える中国人烈士の墓に比べ一段と大きく、立派な墓だった。

本名は宮川啓吉とある。本名が記された前線死者は珍しい。それは戦後に関係者が調査し

た結果である。捕虜名は中国にかぎらずどの戦線でも偽名ないし匿名で記される。それは交 戦相手の捕虜になったとき、本名を明らかにすれば、日本軍に知られやすくなることを本人 や捕虜捕捉者が恐れたためである。

2002年に前田光繁の作成した「日本人反戦同盟員(後の解放同盟員)名簿」⑤は宮川について短いが、貴重な記述を残している。

⑤ 宮川英男 冀魯豫支部 四五年六月七日事故、概況:敵の包囲攻撃を受け自決。 地区副委員長、山梨県御坂人、本名宮川啓吉?

③にある出身地は埼玉県であるのに、⑤は山梨県東部と見なしている。いくつかの状況 証拠から山梨県笛吹市あたりと見なされる。所属が冀魯豫支部という点は②③⑤は一致す る。旧所属部隊は不明である。彼が幸いだったとすれば、墓地がつくられ、そこに1991 年3月に前田らの墓参団が参詣し、その模様を報告書に載せていることである。

いずれにせよ死亡年月日が異なっていること点が気になる。最後に⑤にあるその他の死者の記録を掲載しておく。

氏名	死亡年月日	死亡時の戦況
小又長福	41 • 11	戦闘中日本軍に捕まり、犠牲となる。
黒田嗣彦	42 • 9	前線工作中包囲され、手りゅう弾で応戦、銃弾をうけ自決
松野 覚	43 · 5 · 3	呼びかけ工作中銃弾をうけて戦死
浅野 清	43 · 5	前線工作中銃弾をうけて戦死
田中 実	4 3	戦闘中日本軍に捕まり、大義に殉ずる
金野	4 3	八路軍指揮官救出のため壮烈な戦死を遂げる
醇田嗟産	4 3	敵に包囲され格闘、自決(新華日報43・7)
今野 博	44 • 4	対日本軍工作中捕えられ殺害される
砂原利男	45・5中旬	呼びかけ工作中、敵弾をうけ戦死
佐野甚七	同	同
田畑作造	45 · 6	江蘇省東台付近で敵機の襲撃を受け戦死
鈴木 宏	4 4	反掃討中格闘。捕えられて犠牲になる
板谷文次良	% ?	応城で任務遂行中、捕えられ拷問死
浜田	45 · 8 · 1	5 日軍拠点に降伏勧告に行き殺される

主として5つの資料を通じて宮川英男が八路軍と戦い、捕虜となり、反戦兵士として日本軍と戦い、死亡し、そして八路軍の墓に葬られた経過をまとめようとした。彼ほど足跡をつかめる資料の残った者は少ない。日本軍は捕虜の存在を認めなかったので、文書には戦死者

として、あるいは行方不明者としてしか処理しなかった。中国共産党側でも捕虜の氏名を記録することはなかった。しかも多様な前線で戦死に追い込まれたことが分かる。この他、病死と記されたものが多い。それは重傷を負って、延安などの病院に運ばれたが、まもなく死亡したものと思われる。したがって戦死の年月日や場所も確定しにくい。宮川のように、八路軍側で戦闘後戦力に余裕があった場合、その戦闘が戦史上意義を認められた場合、墓地がつくられ、延安の本部で顕彰された。それはごくまれである。さらに偽名を使われているので、生存、引揚者がその戦死者の出身地や原隊を探すことは極めて困難であった。したがって宮川でさえも出身地が確定していない。中国共産党軍では戦死者の大部分は捕虜名のみが記載されるだけであった。

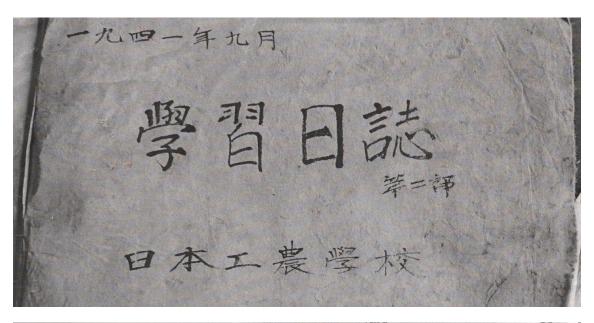
野坂参三によると犠牲者(戦死者)は10名くらい(『亡命十六年』時事通信社、1946年、56頁)といっているが、これは延安側での過小な集計である。本稿でいう戦死者は100名ほどいたのではないかと筆者は推測する。

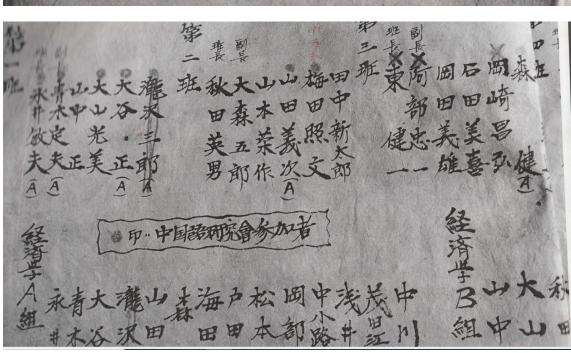
(本稿は延安革命記念館と山本保管の前田光繁氏旧蔵資料に依拠している)

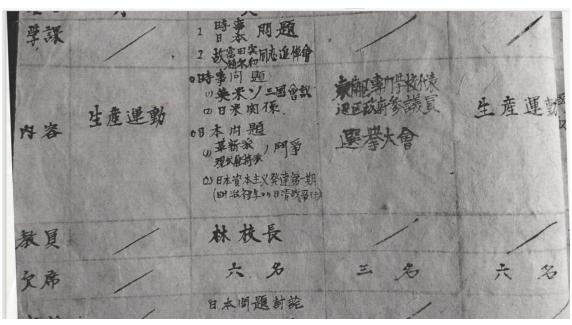
*インパール作戦でも日本軍は INA を使ったインド兵へのメガホン、スピーカー、ビラなどの戦場プロパガンダを実行した(山本武利『特務機関の謀略』吉川弘文館150頁)。短期間、小規模のものであったろうが、自国民への捕虜の口コミプロパガンダである。敵のモラール崩壊の手法は八路軍のそれと共通するが、この種のプロパガンダを継続できる実行する基盤がインパールでは欠けていた。

八路軍のプロパガンダには解放区の兵站、ゲリラ活動と連携したインテリジェンス工作が あった。

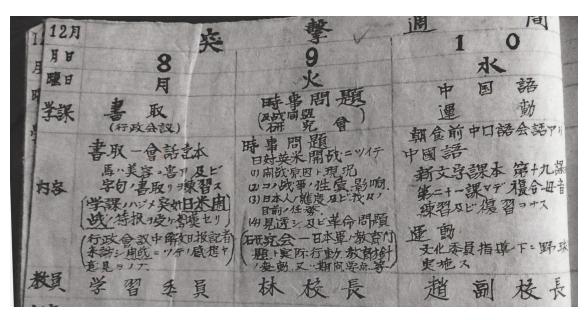
*筆者の2007年の延安訪問の際には残っていた日本労農学校の校舎は2014年秋の訪問時には取り潰され、敷地は整地化されていた。延安中心部を見下ろす展望のよい敷地はマンションに再開発必至という雰囲気であった。校舎跡地に申し訳なさそうに残された記念碑の一部がかつての友好の原点の存在を今に伝える唯一のものとなっていた。2014年9月2日付けの『光明日報』に「抗日英雄」300人が掲載された(アメリカ人、ソ連人各2名、ポーランド人、カナダ人、インド人各1名)。日本人では日本軍と戦って犠牲となった反戦捕虜宮川英男だけである。野坂の名はない。(山本武利「野坂参三の「延安妻」一毛沢東が用意した"秘書"」『新潮45』 2015年4月号)。







V



P	五週	A The Man of the land of the
1 8	1 9	2 0
本 经济学 A.B组	金	土
自 智	護 書 會 中国器研览會	中國問題試驗中国語
粮 新民主美经济, 粮 水菜工業 2 以行	班外讀書会 (第五回目) スターリンと赤軍	中国正史武驗問題
随. 帝驻美经者 ()然中模式會社. ()然中與税战争	33頁3行—39頁マデ (内容總結-重皇9秋) 中国語研究会	(2) 局域學当時中国中陸級與係及上 民權關係一如何。 (3)太平天国失敗、原因=ツイテ。以上
以放与1自由競爭二少月5。 1智試験準備1月×新文 多月刊于複智也月。	新持久战,問題的提起 第7 及第六 / 一部 亨宾施入	中国語 中国語試験人結果発表並ニアヤマリル上判研究及に新文学 ノ復習ョナス
王部長	(新聞相語会認可)	楊 同志 (中四題)
A組一名	中研會六名	ナシ 中国語 四名(公制)

延安労農学校出版物

1、1932年3月2日のコミンテルン執行委員会 常任委員会会議に於ける同志クーシネンの報告から

『日本帝国主義と日本革命の性質』 在華日本人反戦同盟延安支部 28頁 1941年刊

2、八路軍政治部敵工部日本問題研究会著編 『最近の日本の政治情勢』 在華日本人 反戦同盟延安支部

中華文藝誌『敵国彙報』その他掲載1940・6・17~41・1・10

の9論文の日本語訳

97頁、1941年刊

- 3、青年コミンテルン編『無産者政治教程―資本主義社会の解剖』(上) 59頁 延安日 本工農学校出版部 1941年刊
- 4、カー・エー・ヴォロシロフ著『スターリンと赤軍』 在華日本人反戦同盟延安支部
- 40頁 1941刊 5、青年コミンテルン編『無産者政治教程―資本主義社会の解剖』(下) 61頁 延安日 本工農学校出版部 1942年刊
- 6、『日本共産主義者へのてがみ』 1936・2 在華日本共産主義者同盟 ポケット
- 版 49頁 1943年刊
- 7、岡野進 (野坂鉄)『「支那事変」六週年に際して 日本国民に争ふ (公開状)』中国 (陝 西省) 延安にて 昭和一八年七月七日 32頁 付録岡野同志略歴

『野坂参三選集』戦時編 389-416頁所収

8、野呂栄太郎『日本資本主義発達の歴史的諸条件』日本工農学校出版部 1944年1 0月 174頁

序 本書は、一九三四年支配階級の刀の下に倒れた日本共産党の指導者・野呂栄太郎 の日本資本主義発達史の貴重な著書の一部である。学校出版部は、学生の日本問題研究の 手引きとするために分冊発行することにした。

一九四四年十月 延安 日本工農学校出版部

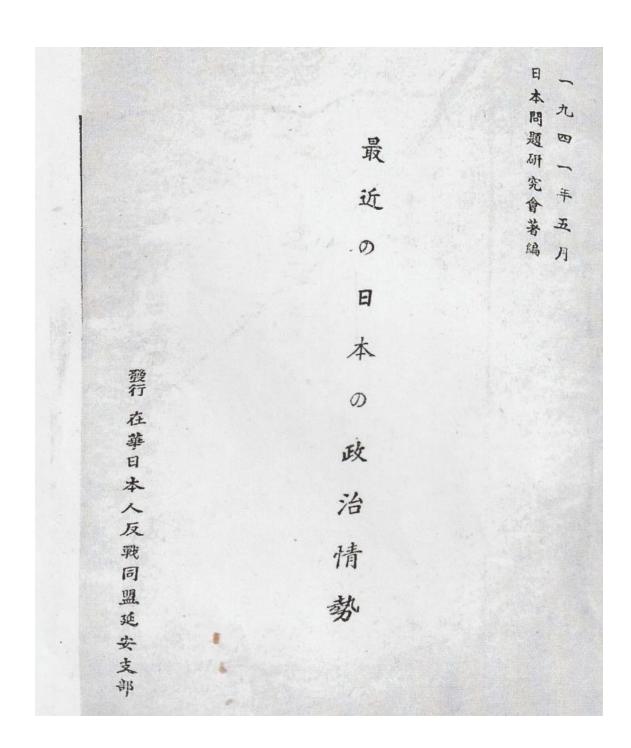
●むつかしいテキストをなぜ読ませるのか?

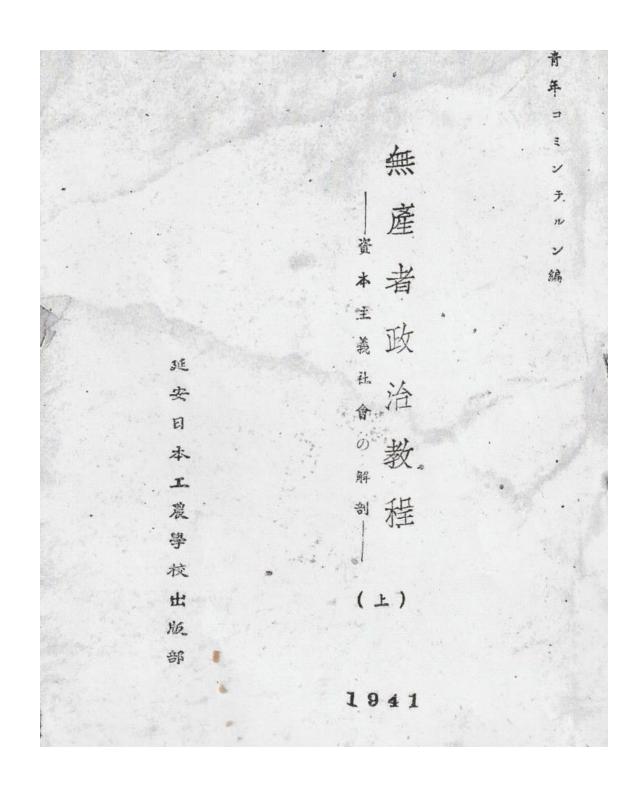
野坂は慶應大学での短期の講義以外、日本人若者に指導者として接触したことがなかった。「このような反戦兵士との工作、捕虜たちとの交渉は野坂にはじめて日本の普通の民衆の意識を理解させた。そのことが彼の天皇制観の修正、現実化をもたらした。その意味で、延安の学校は野坂にとっても学校の意味をもったのである」(和田春樹『歴史としての野坂参三』100)。

後に捕虜にはこれらのテキストは難解であることを知り、自身の平易な講義やそれをもとにしたテキストを作成した。しかし難解であるほど、イデオロギーの浸透に役立つことも分かった。ヨウトンでの洗脳工作で「軍国主義」「帝国主義」といったことばが「オウム」のように学生からほとばしり出ることを実験し。その片言節句が講義の効果を証拠だてることを認識した。体系的にテキストを理解せず、オウムのように口走る断片用語から思想改造の成果を確認させた。マルクス主義、毛沢東思想浸透の成果の確証を得た。思想改造の目的は繰り返す象徴的な用語の捕虜からの発声が示した。洗脳工作の成果であった。

労農学校で捕虜教育の陣頭指揮にあたった岡野によれば、その破壊は思ったほどやさしくなかった。「なかにはどうしても軍国主義的観念の抜け切れないものがあった。それらのものは学校の内部でいろいろ破壊工作をやったが、そういふ人々にたいしては、一方に、あらゆる方法で説得するといふ方法をとるとともに、それでもきかない場合には、学生全体の大会をひらき、大衆の力によってその誤りを批判するといふ民主的な方法をとった」(野坂参三『亡命十六年』時事通信社)。

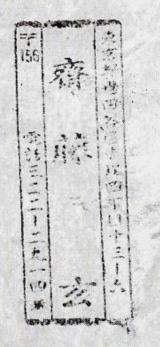
岡野のいう「民主的な方法」とは集団批判のことである。実際にそれを実際に見学したアリヨシは「延安では、批判は各学生が自分自身を最も見つめる鏡と見なされている」との書き出しで集団批判についてこう記述している(45号)





日本資本主義 發達の歴史的諸條件

野呂榮太郎著



日本工農學校出版部
一九四四年十月(延安)

さんで木活字をつくり、それを使つた。

をやりながら、しかも定射的に新聞を⊛行しなければならない、簡單な印刷器具だけを居やロバにつんで、緯々と遊撃職職Jがあるたびに、重い印刷機はすべて地中ふかく埋めてしま前線の印刷工場となるとさらに大嫌で、 日本軍の「大討伐

る。つで、やつと新聞が簽行されつで、やつと新聞が簽行されるしたとむような苦心をはらが、文字どうり全員命がけで布の仕事を受けもつ人々までく、編集はもとより、新聞配い。これには印刷だけではな

確や野草が紙の原料

関民政府地區からる、紙を手つだったのとたりには事業を関係が過からる、紙を手つだった。日本軍地區からもくり出さればならぬものの一紙もまた、中共が新しくつ

た中共は、麻や野草から紙をつくつた。

つたく夢にすぎない。そとで中共は、麻を原料として、今のどない。また、まれに森林があつても、パルブ製紙などはま華北には大體(ゲ山が多く、紙の原料となるものはほとん

に紙をもたない中共は、やむなくこれで新聞をつくり、書籍た。マラン草紙は、麻紙よりも、さらに粗悪だつたが、ほかけつか、マラン草とゆう野草で紙をつくることが 發明 された。その後、紙の原料として使える草を一生けん命さがした日本のセンカ紙よりも、もうすこし品質の悪い紙を つく つ

は、比較的見られるようなな。は、比較的見られるような紙できまったなって、のちになが、うますたゆきす故術のたが、うますたりするなが、うますたりする子がたりする手できてあって、川の流れを利用して紙なければならぬ有様だったとしなければならな有様だった。そのなが、大、と称の、すにしまさままな。そのため、大、

毛布をはつた放送室

本來ならば、特別の音を吸收する裝置がされてよりな音の反にほられた洞穴から改姿されていた。ところが、放送室にはラジオ改姿が行われていたが、これもやはり延安附近の山中戰時中から、細々とたよりない放送ではあるが、延安から

小林信「無から有を一中国人民の創造性」 『科学と技術』1948 年 9 月号

●洗脳の過程

- 1,情勢学習と理論学習
- 2, 認罪から"告白"へ
- 3,体系的な「認罪坦白」と「尋問調査」大澤武司『毛沢東の対日戦犯裁判』中公新書
- ●前田光繁の体験 高尾栄司『「天皇の軍隊」を改造せよー毛沢東の隠された息子たち』原書房、2012

中國共産党に"改造"されて対日工作を命じられ、徒手空拳で270名の軍国集団林航空隊の"改造"を成功させた。その後、林航空隊は中国初空軍設立に貢献(167)

"人間改造"命令に困惑している撫順管理所職員に対して、北京から指導団がやって来て改造研究会が行われた。指導団は延安出身者で固められ、「東北工作団」と呼ばれていた(173)

●1942 年延安整風運動は学風、当風、文風を統制する毛沢東の運動であったが、捕虜教育には直接影響しなかったが、そのイデオロギー闘争は野坂や中国側教師を媒介し、自由化の雰囲気を殺いだことは否めない。